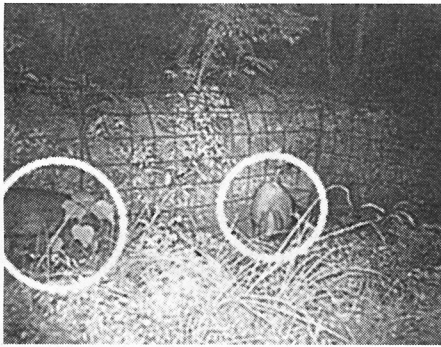


# 農業技術 プリズム

イノシシから農作物を守る対策として、各地で防護柵が設置されていますが、柵の侵入防止効果を得るには設置後の保守点検が重要で、管理が不十分な地域では柵設置後も被害が継続す



決まった場所から出入りしよ  
うとするイノシシの群れ

ることがあります。柵の保守点検はどうすればよいのか、実際に、1・2キロのワイヤメッシュ柵の点検と補修を行い、破損原因や作業に必要な労力と経費を調べました。

## イノシシ防護柵の維持管理方法

### 設置前に適正ルート 管理体制など検討を

点検の結果、40カ所の破損が見つかりましたが、8人体制の3時間の作業で点検と補修が完了し、資材費も約5000円で済みました。破損原因は結束線の切断など自然劣化が約5割、

イノシシなどによる損傷が約1割で、残りの4割は、水路や斜面に柵を設けたために生じた破損や高さ不足など、柵の設置場所を検討すれば未然に防げるものでした。

また、自動撮影装置などによる追跡調査で、イノシシによる柵の損傷は水路などから侵入したイノシシが柵から出ようとする際に起こり、複数の群れが同じ箇所を通過して出入りする様子が観察されています。こうした侵入は繰り返し同じ箇所が発生するため、柵の補修と併せて捕獲などの対策も必要です。

従って、防護柵は「設置前に適正なルートや管理体制を検討」した上で設置すれば「比較的少ない労力と費用で補修補強」ができ、たとえイノシシに侵入されても「侵入箇所などを把握し、柵でイノシシを誘導して捕獲」することで、被害を効果的に防ぐことができます。

(県農林技術開発センター・平田滋樹)